

天ぷらバス ライフカフェ in 南三陸町

日時：平成 23 年 5 月 6・7 日

場所：南三陸 ホテル観洋

参加者の感想

男性 スイーツ提供

それぞれのメンバーが自分の仕事をこなしておりすばらしいと思った。

商品は、手作り系（チョコカップケーキ・チーズケーキ）人気で、特に子供にはチョコクロワッサンが人気だった。持参したマンゴーゼリー・あんみつはお年寄りに人気があった。華北日報で写真を取られた際にポーズをとってしまった。明日の新聞が楽しみだ。本来は、スイーツをカフェで食べるのが基本だが、今回はホテルとの事もあり家族で食べたいとニーズが多かった。避難所とホテルではライフカフェの意味合いが違うと思った。

男性 スイーツ提供

お話しをした被災者の方に避難所の生活がひどかったと聞いた。被災地の様子は自分が思っているより酷かった。自分の生活を考え直すきっかけになった。今度は泥かきボランティアに参加したいと思う。

男性 スイーツ提供

「お好きなだけどうぞ」と声を掛けても遠慮する人が多く、お金を払おうとする人もいた。これが、災害が起きても暴動が起これないと外国で報道された「日本人らしさ」なのかもしれないと思った。亡くなった方の事を考えると複雑な気持ちになった。

男性 子供担当

子供たちは元気だったが、子供たちなりに大変だったのだろうと感じた。こういう時に家族と一緒にいるという絆の大切さを習った。遊ぶものがなくて、探検した時に 4F 大広間に東京電力の方の寝泊りしている部屋があり頭が下がる思いがした。これからも継続した心のケアが必要と思った。

男性 スイーツ提供 北海道から

スイーツは手作り系が人気で、持参した白い恋人では苦い思いをした。自分は北海道からの参加だが、地元で見ていた情報で想像していたより被災地の情報は酷く、辛い思いをしていると思った。自分の認識が甘かった。戻っていろんな人に伝えたい。

女性 スイーツ提供

甘いスイーツや手作りのお菓子里に飢えていると思った。どれを持っていこうかと笑顔で悩んでいるのがとても印象的だった。毎日コーヒーを飲んでいるおばあちゃんが「挽きたてのコーヒーが飲めるなんて」と喜んでいたので嬉しかった。

女性 子供担当 滋賀県から

子供達在必死になって適用しようとしていると感じた。落ち着かない子や過剰に甘える子がいて、子供なりにそれぞれストレスを感じていて、個々に対応しているのだと感じた。継続したサポートが必要と感じた。

>男性 コーヒー提供

移動する道中に有名スポットがあり、特に渡り鳥で有名な蕪栗沼を通れてよかった。ライフカフェでは子供がハキハキしていたから安心していましたが、海の方を見て「海から幽霊がきて連れてっちゃう」と言われた。今後も支援活動を継続したい。

女性 スイーツ提供

スイーツをうれしそうに選んでいた。男性の方に「リンゴを持ち帰って下さい」とお勧めするとカプっとその場で食べて「美味しい」と言っていたのが印象的だった。海を見ていたら「見つかっていない人がまだたくさんいるからあまり見ない方がいい」と言われた。海や被災地が見える場所で生活をするというのは皮肉だと思った。

女性 コーヒー提供

行く途中は被災地のあまりの状況に苦しくなったが、帰るときは海が綺麗だと思った。被災者の方がコーヒーを飲みながら「普段海を見る事が無かったけど、綺麗」と言っていた。「抽選でホテルに入れてよかった。」「避難所生活は大変だったが、みんなで協力していたので楽しかった」と言っていた。あの状況で穏やかに「楽しかった」と言えるのはすごいと思った。前向きな口調で話されて、とても勇気をもらった。

女性 コーヒー提供

コーヒーの香りがとても良くて癒された。被災者の方はとても穏やかで「避難する時にもっといい靴をはいてくればよかったわ」と言って笑い飛ばすような明るい穏やかな方だった。こちらに気を使いませようとしていると感じた。

女性 子供担当

みんなわりと元気だったが大きい子は参加してくれなかった。テーブルをイスで囲ったのが入りにくかったのかも知れない。子供のお母さんにお菓子を勧めても自分では遠慮して取りに行かず

子供に取りに行ってもらっていたのが印象的だった。

女性 コーヒー提供

食事が終わると皆さんすぐ帰る人が多かったので、下膳の所で「コーヒーありますよ」と声を掛けると「コーヒー飲めるの？」と喜こんでくれる人が多かった。

お話しをしていた被災者の方は、「事業をやっていたが全て津波に流されご主人も亡くなった」と堰を切った様に話してくれて、辛いだらうと感じた。お子さんとお孫さんと一緒にホテルにはいっており、「抽選に当たってよかったですね」と伝えた。

女性 スイーツ提供

皆さん、大人も子供もとても明るかったのが印象的。撤収作業後にコーヒーを飲みに来ていた方がいて、とても残念がっていた。カフェのニーズはあると思った。

女性 スイーツ提供

みんな最初は遠慮するが袋に入れてあげると喜んで持って行ってくれた。中には頭を深々と下げている方がいて参加してよかったと思った。

女性 スイーツ提供

知的障害のある被災者の方とお話しをしました。津波で大切なものが流されてしまったとの事。コーヒーや甘いものが好きで、長い時間カフェにいた。昼食を済ませた後もカフェに戻ってきて心配して探しに来たお母さんと一緒に過ごした。お母さんは「生きていていいのか」「海を見たくない」「娘がいるから生きていくしかない」と涙を流しながら話してくれた。

ホテル観洋は物資が届いてはいるが、心のケアが大切だと感じた。

被災地では人との助け合いが本当に大切だと感じたが、今自分が働いている環境で震災があったら果たして助け合えるか？と疑問に思った。

戻ってからこの経験を職員に伝えたいと思った。

女性 スイーツ提供

リンゴを配ったが、「自分には歯が無いからもらっても食べれない」といわれて何とかしてあげられないかと思った。

今被災地には「亡くなられた方」「生きている方」「避難所に生活している方」「ホテルに生活している方」「仮設住宅にいる方」と被災者の置かれている状況は様々で、どんなサポートが出来るのかを考えた。自分でもいろんな考えながら活動したい。

男性 コーヒー提供

被災者の方が「新しいホテルに来て、避難所とは違いプライバシーが保たれるが、みんな部屋にこもりがちになってしまう」と言っていた。話しが出来る場所の提供が必要と思った。

女性 スイーツ提供 静岡県から

東北は日本一のお茶の消費地帯なのにコーヒーの人气が高く、残念。コーヒーミルを挽いている行為と香りがとても魅力的に見えるのだと感じた。最初は被災者の方に接する戸惑いがあったが、「みんな目がつり上がっているような状態でコーヒーを淹れに来てくれてありがとう」といわれ、前向きな気持ちで取り組めた。今度は日本茶ソムリエの勉強をしてお茶を皆に飲んで欲しいと思った。

女性 子供担当

子供はみんな人懐っこく、元気だったが、話しをすると「海から幽霊が来るからあんまり見ちゃいけないと和尚さんに言われた」「幽霊を信じないと幽霊が見えるから信じなきゃダメ」と幽霊の話をする子が多かった。一緒に探検している被災者の方に声を掛けられたがみんな明るく笑顔で、子供が元気なのは大切な事なのと思った。窓から海や被災地を見ながら、自宅の場所を教えてくれたり「海は悪い子」「津波のばかって何回も言った」と言っていた。津波の話をするときは元気だが、「お父さんがお母さんを殴った」といいながら泣いていた。「子供の支援は大人の支援が必要」と心から思った。

一緒にいる子のお母さんが食事に行く時、「よろしくお願いします」と子供を預けてくれたのがとても嬉しかった。